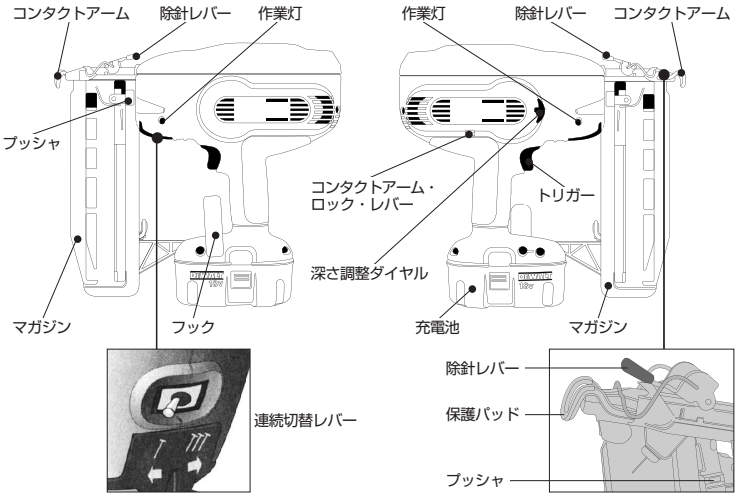
デウォルト電動工具
取扱説明書

DC612
12V 充電式ネイラ

製品の各部名称と仕様



こだわりのデウォルト... 強靭な作業場を提供します。

デウォルトブランドの高品質・耐久性は現在、世界各国で圧倒的な支持を獲得しています。デウォルト電動工具は1923年アメリカ合衆国、レイモンド・デウォルトによって最初の卓上スライド丸ノコが開発されました。以来、石工、木工、金工用工具を問わず多数の工具を提供し、その耐久性はあらゆる作業場の要望にお応えし、満足していただいています。すべての工具はハイテクを駆使した弊社製造技術のもとに作られ、また出荷前の品質管理には万全を期しています。強靭な耐久性、作業の確実性、ハイパワーを作業場でお楽しみください。

仕　様

品番	DC612
電圧	DC12V
使用ピン釘	16ga
装てん数	110本
質量（充電池含む）	3.6kg

目　次

製品の各部名称と仕様 ……1
安全上のご注意 ……2
警告（電動工具を安全にお使いいただくために）……2
注意（電動工具を安全にお使いいただくために）……3
警告（充電式ネイラに関する安全上の追加事項）……4
警告（ニカド充電池と充電器に関する安全上の事項）……6
充電の手順 ……7
製品の特色と使用方法 ……8
トラブル・シューティング ……11
メンテナンス ……13
アフターサービスについて ……13
充電電池と環境 ……13
アクセサリー ……13

安全上のご注意

⚠ 警告　正しく安全にお使いいただく為に、ご使用の前に必ずこの取扱説明書にある指示事項を全てお読みください。

お読みになった後は、いつでも見られるように必ず保管してください。

安全上のご注意（必ずお守りください）

電動工具をお取扱いの際には、火災や感電、けがなどの事故を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

- 表示内容を無視して誤った使い方をした時に生じる危害や損害の程度を、次の表示マークで区分し、説明しています。

⚠ 警告　この表示の欄は、「死亡または重症などを負う可能性が想定される」内容です。

⚠ 注意　この表示の欄は、「障害を負う可能性又は物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

- お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で説明しています。

⚠　このような絵表示は、気を付けていただきたい「注意喚起」内容です。

⚠ 警告　電動工具を安全にお使いいただくために。

この取扱説明書を大切に保管し、必要な時に備えてください。

◆作業場の環境について

- **明るく清潔で、乾いた場所で作業してください。**散らかった作業場や作業台での作業は事故の原因になります。また、雨中や湿った場所など本体内部に水の入りやすいところでは使用しないでください。湿気はモーターなどの電気絶縁を低下させ、感電事故につながります。
- **危険物のまわりでは決して作業しないでください。**通常、電動工具は使用中またはスイッチのオン・オフ時にスパーク（火花）が発生しますので、引火性の液体やガスのある場所の近くで使用しないでください。
- **お子様を近づけないでください。**お子様や外部の方、訪問者が電動工具に触れないようにしてください。作業場所は作業者以外、立入禁止にしてください。

◆個人的な警告事項

- **不用意なスイッチ・オンは決してしないでください。充電池を本体に差し込む前に必ずスイッチ・オフの状態であることを確認してください。**持ち運ぶ間はスイッチに手を触れないようしてください。スイッチが入ると不意に刃物類が作動し、重大な事故を引き起こす恐れがあります。
- **保護メガネや他の保護器具を必ず使用してください。**飛散する切り粉から目を守るために保護メガネを 必ず着用してください。ホコリが大量に出る作業では健康のためにも防じんマスクを併用してください。作業環境によっては耳栓、ヘルメット、手袋、安全靴 の使用も必要です。

◆工具の使用と手入れ

- **加工材はしっかりと固定して作業してください。**クランプや万力などで加工材を固定してください。手で保持するよりも安全ですし、両手で電動工具を使用することは安全につながります。
- **スイッチが入らない、あるいは切れない場合は、ご使用を直ちに中止してください。**スイッチの故障した電動工具は、不意に刃物類が作動し、重大な事故を引き起こす恐れがあります。所定のサービスセンターで修理してください。
- **電動工具の調節や刃物、ビット類の交換の際には、必ず充電池を本体からはずしてください。また、必ずスイッチがオフであることも確認してください。**こうした確認は不意に電動工具が作動して引き起こす事故を防止します。
- **指定の付属品、アタッチメントを使用してください。**デウォルト社製工具への使用を推薦していない付属品やアタッチメントの使用は危険をともなうことがありますので、使用しないでください。

⚠ 注意 電動工具を安全にお使いいただくために。

◆電気に関する安全事項

- **電源コードを乱暴に扱わないでください。**コードの部分を持って工具をぶら下げて持ち運んだり、コンセントから外す際にコードを引っぱったりしないでください。感電やショート等の原因となるので、コードを熱いものや油、薬品類に接触させたり、鋭利なものでキズをつけないように注意してください。万一、誤ってキズをつけた場合はその箇所に手を触れず、直ちにスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。キズついたコードは火災を引き起こす危険性があります。

- **延長コードを使用する場合、電気が流れるのに十分な太さのできるだけ短いコードを使用してください。**

使用できるコードの太さ（公称断面積）と最大長さの関係

コードの太さ（導体公称断面積）	コードの最大長さ
0.75㎟	20m
1.25㎟	30m

◆個人的な注意事項

- **常に注意して作業を行なってください。**電動工具を使用する際、取扱方法、作業の手順、周囲の状況などに十分注意し作業に集中してください。疲労時や飲酒、薬の服用時などには決して使用しないでください。使用時の集中力の欠如は重大な事故を引き起こす原因となります。

- **キチンとした服装で作業を行なってください。**そで口の開いた服装や宝石類を身に付けないでください。電動工具の駆動部分に巻き込まれる恐れがあります。屋外で作業をする際には、滑り止めのついた履き物を着用することをお勧めします。長髪の方は作業の邪魔にならないように帽子などをかぶってください。

- **調整用キー、レンチ等は、使用時以外は必ず取りはずしてください。**スイッチを入れる前に、調節に用いたキーやレンチなどの工具類が全て取りはずされているかどうか、常に確認する習慣をつけてください。

- **無理な姿勢で作業をしないでください。**常に足場を安定させ、バランスを保つようにしてください。無理な姿勢は、思わぬ事故を引き起こす原因となります。

- **電動工具に無理な力をかけないでください。**電動工具は、機械本来の用途や負荷状態の限度内でご使用いただくのが基本です。また、所定の速度で使用することによって、仕上がりの良い安全な作業ができます。
決してモーターがロックするような無理な使い方はしないでください。発煙、発火の恐れがあります。

⚠ 注意 電動工具を安全にお使いいただくために。

- **本機が偶発的に始動しないように注意してください。**充電池を入れる時は、スイッチがロックされているかオフ位置にあることを確認してください。指をスイッチに当てたまま本機を運んだり、スイッチを入れたまま充電池を本機に取り付けたりすることは大変危険です。コンタクトアームはロック位置にして、釘が偶発的に発射されないように注意してください。

- **安全機器を使用し、保護眼鏡を必ず着用してください。**また、防塵マスク・滑り止め靴・ヘルメット・防音保護具・適切な聴覚保護具を着用してください。使用条件によっては、騒音が聴覚障害を引き起こすおそれがあります。

- **使用していない電動工具はお子様や初心者の方の手が届かない乾燥したところに保管してください。**電動工具はお子様や初心者の方には大変危険なものです。使用していない時は本体と充電池を別々に保管することも心がけてください。

◆工具の使用と手入れ

- **作業にあった電動工具を使用してください。**小型の電動工具やアタッチメントを大型の電動工具で行なう作業には使用しないでください。けがの恐れがあります。

- **指定された用途以外には使用しないでください。**けがの恐れがあります。

- **損傷部品を点検してください。**引き続き使用する前に、安全カバーやその他の部品に損傷がないか点検してください。また正しく動作するか、所定の機能が発揮されるかどうかを確認してください。可動部分の位置ずれや引っかかり、部品の破損、取り付け状態、その他に異常がないか点検してください。損傷した不良部品は、所定のサービスセンターで修理または交換してください。

- **電動工具と刃物類は、こまめに手入れをしてください。**安全で効率の良い作業をしていただくために、刃物類はよく手入れをし、シャープな状態を保ってください。握り部は常に乾かしてきれいな状態に保ち、油やグリースがつかないようにしてください。電動工具は常に手入れのゆきとどいた状態で使用してください。

◆修理／メンテナンス

- **本機の性能を維持するために清掃・点検を定期的に行ってください。**

- **電動工具の修理は有資格技術者のみが行えます。**修理、メンテナンス、調整は所定のサービスセンターの有資格者が行わなければなりません。

- **純正部品のみを使用してください。**十分な能力を発揮するために、修理メンテナンス、調整は、純正部品のみを使用して行なわなければなりません。

⚠ 注意　充電式ネイラに関する安全上の追加事項

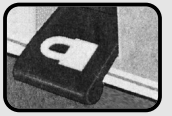
- **金属等の硬い作業物に打ち込まないでください。事故の原因になります。**
- **高所作業のときは、下に人がいないことをよく確かめてください。材料や本機を落としたときなど事故の原因になります。**
- **コンタクトアームを確実に材料に当ててください。確実に当てていないと、釘がはね返り事故の原因になります。**
- **作業中は、本機に顔などを近づけないでください。釘の上や節などに当たった場合、本機が大きく反動しけがをする原因になります。**

⚠ 警告　充電式ネイラに関する安全上の追加事項

本機は木材及びそれに類した材料を木材に留めることを目的とした釘打機です。指定以外の用途、使用方法は重大な事故につながる恐れがあります。この取扱説明書の記載事項を遵守してください。作業関係者以外、特に子供は作業場所に近づけないでください。また、本機に触らせないで下さい。

◆使用上の注意

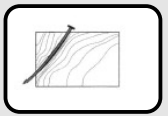
- **下記の作業をする場合は、必ず充電池を本機からはずしてください。**
  - ・詰まりを修繕するとき
  - ・保守、点検、修理
  - ・本機を持ちながらの移動するとき
  - ・本機から離れるとき
- **コンタクトアームやコンタクトアーム・ロック・レバーを取りはずしたりするような本機の改造、また本機を動作不能の状態にする行為は絶対に行わないでください。**トリガーまたはコンタクトアームは、オンの位置にテープで止めたり結んだりしないでください。制御不能の発射が起こるおそれがあります。
- **コンタクトアームやコンタクトアーム・ロック・レバーが一部でも動作不能の場合や外れている場合は、本機を使用しないでください。**
- **本機が改造されていた場合や正常に動作しない場合は、本機を使用しないでください。**損傷した部品や損失した部品は使用前に修理してください。
- **本機は絶対に改造、変更しないでください。**
- **本機に釘が入っていることを常に意識してください。**
- **用途に合わせて正しい釘打機を使用してください。**正しい釘打機を使用することにより設計通りの性能と安全性が確保できます。
- **トリガーを引くことで始動や停止ができなくなった場合は、絶対に使用しないでください。**トリガーの制御がきかなくなった場合は、大変危険ですので点検・修理に出してください。
- **調整やアクセサリーの交換または本機を保管する際は、必ず充電池をはずしコンタクトアーム・ロック・レバーをロックしてください。**これにより本機の偶発的な発射を防ぐことができます。



- **本機をすぐに使用しない際は、必ずコンタクトアーム・ロック・レバーを入れてください。**コンタクトアーム・ロック・レバーは、不意の発射を防ぎます。
- **充電池を使用しないときは、紙クリップ、硬貨、キー、釘、ネジ、その他の短絡の原因となる金属物のそばに置かないでください。**充電池端子を短絡させるとスパークや延焼、火災を引き起こすおそれがあります。
- **部品の破損、その他本機の動作に影響する状態をよく確認してください。**破損が見つかったら使う前に修理してください。
- **アクセサリーは、本機で推奨されているものをご使用ください。**
- **本機は絶対に作業者や周りの人に向けないでください。**本機は大事な作業道具です。
- **本機を使用しない時は、子供や部外者が触れない場所に保管してください。**本機を使用しない時はコンタクト・アーム・レバーを入れ、見学者や子供の手が届かない所に保管してください。

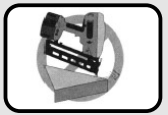
- **トリガーに触れながら本機を持ち運ぶと偶発的な発射を引き起こすおそれがあります。**絶対にトリガーから手を放して運んでください。
- **常に正しい足場と姿勢を保ち、無理な姿勢で作業しないでください。**
- **本機は決められた目的にのみ使用してください。**釘は、コンクリート・石・特に硬い木・その他貫通できないほど硬い素材には打ち込まないでください。それらに釘を発射すると、予期しない方向に飛んで事故の原因となります。
- **本機を、ハンマーとして使わないでください。**
- **マガジンから指を離してください。**プッシャが不意に解除されたときにけがしないように注意してください。
- **本機の正しい保守については、保守と修理の項を参照してください。**
- **本機は必ず清潔で明るい場所で使用してください。**部材表面にゴミが付着していないことを確認してください。屋根のような高い場所で作業するときは、安定した足場を確保してください。

●**釘を部材の端に打ち込むと部材が割れ、釘が跳ね返ってけがをするおそれがあります。**釘は木の木目（明るい部分）に沿って進むと、横から不意に飛び出す場合がありますので用心してください。



●**壁の内、外側からの同時作業はしないでください。**

●**釘の先端は木目に垂直に打ち込んで、事故を予防してください。**



●**手と体は作業面からできるだけ離してください。**部材を保持する場合は、クランプで保持して、手や体がけがしないように注意してください。本機を部材にあてる時は、部材をしっかりと固定してください。さもないとコンタクトアームが不意に部材を動かすおそれがあります。

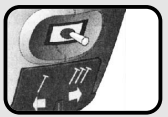
●**揮発性可燃物（ガス・ガソリン・シンナ等）がある所では本機を使用しないでください。**さもないと本機のスパークが引火して火災の原因となるおそれがあります。釘を別の釘に打ち込むこともスパークの原因となります。

●**囲まれた区域で作業するときは、顔と体を本機の背後から離してください。**特に硬い素材に打ち込むときに、突然の反動が体に衝撃を与える場合があります。

◆連単切替について

●**連単切替の** ／ **は単発打ちの事です。**

●　〃　 /// **は連続打ちの事です。**



◆単発打ち

●**本機を単発打ちで使用する時は、本機を部材にしっかりとあててから動作させてください。**

◆連続打ち

●連続打ちとはトリガーを引いたまま作業物にコンタクトアーム先端を打ち当てる動作を繰り返すことで、連続的に釘打ち作業が出来る打ち方です。

●**本機を連続打ちで使用する時は、本機の反動により予期しない二重発射が起こる場合があるので注意してください。**コンタクトアームが偶発的に部材表面に再度あたると、釘が二重に発射されるおそれがあります。

●**連続打ちの位置にしている時は、常に本機を維持してください。**本機の維持が不適切だと釘が間違った方向に発射されるおそれがあります。

◆二重発射を防ぐために

●**本機を部材にあまり強く押し付けないでください。**

●**一度釘を発射したら、完全に次の作業場所に動かしたことを確認してください。**

●**釘を別の釘のヘッドに打ち込まないでください。**強い反動、釘の詰まり、または釘のはね返りが起こるおそれがあります。

●**本機を使用する時は、素材の厚さに注意してください。**釘が飛び出してけがをするおそれがあります。

◆深さ調節

●**深さを調節する時に本機が偶発的に作動してけがをすることがないように、必ず以下の注意事項を守ってください。**

●深さ調節をする際は、充電池をはずしコンタクトアーム・ロック・レバーをロックしてください。

●**調節中はトリガーに触れないでください。**

●**釘をむやみに壁や床、その他の場所に打ち込まないでください。**釘が通電した電線、配管、その他の障害物にあたってけがをするおそれがあります。

●**本機を使用する時は、注意して常識をふまえた取り扱いを行ってください。**疲れている時や薬物、酒を飲んでいる時、医者の治療を受けている時は本機を使用してはなりません。一瞬の不注意が重大な人身事故につながります。

本機を使用する前に、【安全に関する重要な注意事項】を全て読み理解してください。

⚠ 警告　充電式ネイラに関する安全上の追加事項。

電動工具のラベルには、下記のマークが含まれることがあります。

V	・・・・・・・・・	電圧
⎓	・・・・・・・・・	直流
⧈	・・・・・・・・・	二重絶縁
⚠	・・・・・・・・・	注意
n_0	・・・・・・・・・	無負荷状態でのスピード
○○○min^{-1}　rpm	・・・・・・・・・	1分毎の回転数

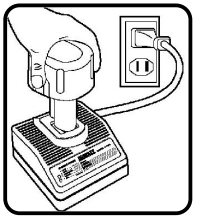
⚠ 警告 ニカド充電池と充電器に関する安全上の事項。

◆下記の注意事項を全てお読みください。

- **充電器の定格電圧が電源と一致していることを確認してください。**充電器は定格表示してある電源で使用してください。昇圧器などのトランス類を使用したり直流電源やエンジン発電機では使用しないでください。異常に発熱し、火災の恐れがあります。
- **充電器は屋内のみで使用してください。**充電器を濡れた場所や、ちらかった場所では使用しないでください。特に水まわりの近くでの使用や、水の中に浸けたりしないでください。また、濡れた手で電源プラグに触れないでください。感電の恐れがあります。
- **電源コードが破損した場合は、直ちに使用を中止してください。**破損したコードの交換が必要な場合は製造者、もしくはその代理店又は同等の有資格者のみに作業が許されます。
- **充電器が衝撃、落下、その他何らかの原因で損傷した場合には使用せず、**所定のサービスセンターにお持ち込みください。
- **導電体の物を充電器の充電端子に接触させないよう十分注意してください。**充電器の充電端子には高電圧がかかっており、感電および感電死の恐れがあります。
- **充電池の表面にひび割れや損傷がみられる場合は、絶対に使用しないでください。**充電器に破損した充電池を差し込むと、感電および感電死の恐れがあります。
- **電源コードを乱暴に扱わないでください。**コンセントから電源プラグをはずすときは、コードを引っ張らないでください。電源コードの位置に気をくばってください。コードを踏みつけたり、つまずいたりすると危険ですし、コードをキズつけることになります。
- **充電池は換気のよい場所で充電してください。充電中は充電池および充電器の上にものを絶対に置かないでください。また、柔らかいもの（例：綿、スポンジ等の材質）の上に充電器を置かないでください。**充電器の上部と底部に通気するための穴が切ってあります。穴をふさぐと、熱が充電器内にこもりたいへん危険です。充電器は熱のあるところをさけてご使用ください。
- **充電器を分解する試みは絶対にしないでください。**修理／メンテナンスは、所定のサービス・センターに依頼してください。発火したり、異常動作してケガをする恐れがあります。
- **充電器を掃除する際、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行なってください。**これは感電を防止するために必要な事項です。充電池を充電器から抜くだけでは、感電の防止にはなりません。
- **充電池を開ける試みは絶対にしないでください。**充電池本体にひびや傷へこみを発見した場合、再充電することなくすぐにご使用をおやめください。
- **周囲温度が＋4℃以下、及び＋40℃以上のときは充電池の充電を行なわないでください。**これは充電池に重大な損傷をあたえるのを防止するために必要な事項です。
- **電動工具や充電池を温度が50℃以上になる可能性がある場所（金属の箱や夏の車内など）に保管しないでください。**充電池劣化の原因となり、発熱、発火の恐れがあります。
- **使用時間が極端に短くなったときは使用をおやめください。**充電池の液漏れ、発熱、破裂の恐れがあります。
- **充電池がひどく損傷していたり完全に消耗していても、焼却しないでください。**充電池が火の中で爆発する恐れがあります。過度な使用や極端な温度状況のもとでは、わずかな量の液もれが充電池から発生することがあります。もし外部シールが破れて漏れ出した液体が皮膚に触れた場合は：
  - ＊石鹸と水で直ちに洗い落としてください。
  - ＊レモンジュースや酢などの弱酸性で中和してください。
  - ＊電池液が目に入った場合は、きれいな水で少なくとも10分間洗い流してから、直ちに医師の診察を受けてください。（備考：この液体は水酸化カリウム25～35%溶液です。）
- **充電池の端子間を絶対にショートさせないでください。**ネジ、刃物、釘などの金属が充電池の充電用金属端子に接触してショートすると、発煙、発火、破裂などの恐れがあります。
- **充電池の充電は専用の充電器のみで行なってください。**誤った使用法は感電を引き起こしたり、充電池を加熱させたり、液漏れなどを引き起こす原因となります。取扱説明書に記載してある充電器でのみ、充電池を充電してください。
- **専用の充電池でのみ本製品をご利用ください。**他社製の充電池での本製品のご使用は、火災を引き起こす危険性があります。取扱説明書に記載している充電池でのみ、本製品をご使用ください。
- **使用しないときは、プラグをコンセントから必ずはずしておいてください。**
- **「充電上の注意事項」を必ずよくお読みください。**

充電の手順

◆充電のしかた（１時間充電器）



（1）充電器の定格板に表示してある電源と、コンセントの電源が一致していることを確認してください。家庭用電源のコンセントに充電器の電源プラグを差込んでください。

（2）充電池を充電器の差込み口に差込んでください。充電池がしっかりと差込み口にはまっているか確認してください。充電器が充電を始めると、赤い点滅灯が点滅しはじめます。これは、「充電中」を意味します。

（3）充電池の充電は約１時間で完了します。充電が完了すると、点滅灯が光ったままになります。これは「充電完了」を意味します。

＜リフレッシュ充電＞（1時間充電器）

充電池は充電および放電を繰り返すうちに、複数個ある内部セルの充電状態がそれぞれ不均一となり、本来持っている性能を十分発揮できなくなることがあります。リフレッシュ充電を行なうことにより、各セルの充電状態を均一化させ、本来持っている性能を発揮できるようにし、寿命を最大限に引きのばすことが可能です。充電池を最適な状態に維持するためには、10回の充電ごとに1回または、1回の充電で以前と同様の作業が行なえなくなった時にはいつでもリフレッシュ充電を行なうことをお勧めします。このリフレッシュ充電には約8時間を要します。リフレッシュ充電を行なうには、通常通りの充電が完了した後、充電池を充電器から取り外さずにそのままセットしてください。リフレッシュ充電機能は次の順序で作動します。

（4）通常の1時間充電の完了後、自動的にリフレッシュ充電を開始します。（赤い点滅灯は点灯したままです）このリフレッシュ充電は最長約8時間または、各個別のセルの充電状態が均一化されるまで継続します。リフレッシュ充電中でも充電池の充電は完了しておりますので、いつでも充電器から取りはずしてご使用頂くことができます。

（5）リフレッシュ充電の完了後、充電器は自動的にメインテナンスモードに移行します。（赤い点滅灯は点灯したままです）メインテナンスモードではトリクル（微少）充電により常に充電池を満充電の状態に維持します。ただし、メインテナンスモード中に充電器の電源プラグをコンセントからはずした場合には、この機能は作動しません。充電池は長時間放置したままにすると、少しずつ自己放電しますので、ご使用の前に充電を十分にしてください。

◆充電池の過熱探知機能（１時間充電器）

充電池が過度に熱くなるのを防止する機能をそなえています。充電池が過度に熱くなった場合、充電器は一時的に充電を中止しますので、充電池の寿命を最大限に引き延ばします。このとき、赤い点滅灯が1回長く点滅し、2回目に短く点滅することをくり返します。充電池の温度が下がった後、充電器は自動的に充電を再開します。

◆充電がうまく行われないときは

（1）電源コンセントに電灯などの他の電気器具を接続して、確実に電流が来ているかを調べる。

（2）電源コンセントが、壁の電源スイッチと連動しているか確認する。

（3）周囲温度が十4℃以上、および十40℃以下の環境下で充電を行なったか確かめる。

（4）それでも充電しないときには、お買い上げの小売店にお買い上げの時のレシートなどと一緒にご持参のうえご相談ください。

⚠充電上の注意事項

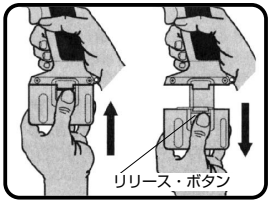
- 充電中、充電器と充電池は触れると暖かく感じるようになります。これは正常な状態であって、問題はありません。
- 充電池を充電していないとき、充電器のプラグは電源コンセントからはずしておいてください。スチール・ウール（鉄綿）、アルミホイル、その他の金属切り粉等により、充電器の充電端子が短絡する危険性があります。また、これらの材質からはなれた場所で充電器を使用することを心がけてください。充電器のプラグは電源コンセントからはずした状態で、これら異物を取り払ってください。
- どんな液体も充電器内に入らないように気をつけてください。感電を引き起こす可能性があります。充電池の冷却を容易にするため、ご使用の後、充電器と充電池は高温になる場所で保管しないでください。
- NiMH（ニッケル水素）充電池を充電される際は、ニッケル水素充電池専用の充電器をご使用ください。
- 工具の力が弱くなってきたと感じたら、ただちに使用を中止し再充電してください。無理に使い続けると充電池が傷み寿命を短くします。
- ご購入後最初の充電および長期間保存してあった充電池は、内部化学物質の活性が十分でなく、その容量の80%程しか充電できないことがあります。その場合には充電および放電を数回繰り返すことにより、100%充電できるようになります。
- この充電器は、お客様がご自身で修理することはできません。ご自身で充電器を開けられると静電気が発生し内部部品が故障する可能性があります。かならず所定のサービスセンターに修理／メンテナンスを依頼してください。

製品の特色と使用方法

⚠デウォルト社製ニカド充電池は充電されていない状態で出荷されます。最初にご使用のときは、ご使用前に必ず充電を十分にしてください。

◆充電池の取り付け方/取りはずし方

> ⚠ **注意** 充電池の取りはずし、または装着を行う前にコンタクトアーム・ロック・レバーをロックしてください。

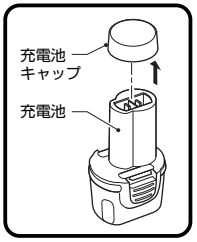


充電池を本機に取り付けるとき、充電池の向きが工具ハンドルの下にある挿入口と方向が合っていることを確認し、「カチン」としっかりはまるまで電池を差し込んでください。

⚠充電池が十分充電されていることを確認してから本品をお使いください。

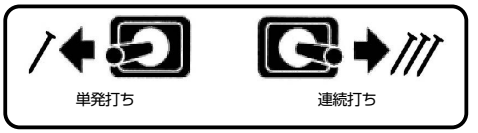
充電池を工具から取り外すとき、充電池の両側にあるリリース・ボタン2個を押したまま、充電池を下に引きますと工具から外れます。

⚠充電池を充電する際、「充電の手順」の項に従って実施してください。



充電池をご使用にならない時は、常に付属の充電池キャップを充電池に装着して保管してください。ご使用になるときは充電池から充電池キャップを取りはずし、充電池を本機に取り付けてください。
上記の「充電池の取り付け方／取りはずし方」の指示に従って、充電池の取り付けと取りはずし作業を行ってください。

◆打ち方（連単切替レバーの使い方）

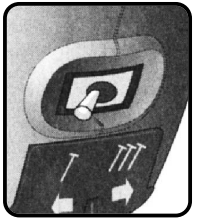


◆単発打ち

> ⚠ **注意** 本機を使用しないときは、トリガーを引いたままにせずコンタクトアーム・ロック・レバーを必ずロックしてください。

> ⚠ 打ち込みのたびにコンタクトアームを押し付けてからトリガーを引き、ひとつの打ち込みが終わるたびにコンタクトアームとトリガーを解除する必要があります。

本機を単発打ちで使用する時は、本機を部材にしっかりとあててから動作させてください。
単発打ちは慎重かつ正確に位置を決め、断続的に釘打ちを行うときに使用します。



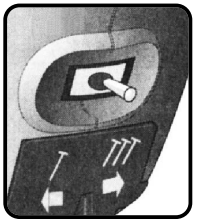
(1) 左図のように、本機のトリガーとマガジンの間にあるスイッチを左に入れます。
(2) コンタクトアームを作業面に押し付けます（モータが始動します）。
(3) トリガーを引くと釘が発射されます。
(4) トリガーを離します。
(5) コンタクトアームを作業面から離します。
(6) 2〜4を繰り返して打ち込みを続けます。

◆連続打ち

> ⚠ **注意** 本機を使用しないときは、トリガーを引いたままにせずコンタクトアーム・ロック・レバーを必ずロックしてください。

連続打ちは、平らで静止している面に高速で釘を打ち込む場合に使用します。
連続打ちを行うには、場所始動と連続始動という 2 つの方法があります。

場所始動方法
(1) P 9 上図のように、本機のトリガーとマガジンの間にあるスイッチを右に入れます。
(2) コンタクトアームを部材に押し付けます。
(3) トリガーを引くと釘が発射されます。
コンタクトアームを押し付けていれば、トリガーを引くたびに釘が発射されます。



連続始動方法

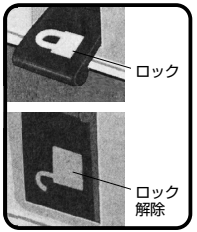
(1) 右図のように、本機のトリガーとマガジンの間にあるスイッチを右に入れます。

(2) トリガーを引きます。

(3) コンタクトアームを部材に押し付けると、釘が発射されます。
トリガーが引かれている限り、コンタクトアームを押し付けるたびに釘が発射されます。それにより複数の釘を順次に打ち込むことができます。

◆コンタクトアーム・ロック・レバーの使用

⚠ 注意 コンタクトアーム・ロック・レバーによりコンタクトアームがロックされ、釘を発射することを止めることができます。



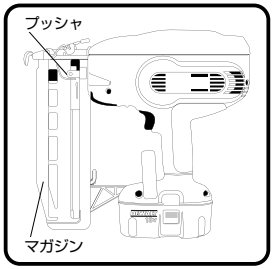
本機にはコンタクトアームロック・レバーが装備されています（左図）。
これを引き降ろして図のようなロック・マークが表示されると、釘は発射できません。
コンタクトアーム・ロック・レバーを図のようにたたむと、本機は使用可能の状態になります。

⚠ 注意 本機を調整するときやすぐには使わないときは、必ずコンタクトアーム・ロック・レバーをロックしてください。

◆釘の装填方法

⚠ 警告
- 本機に釘を装填するときは、安全な方向に向けてください。
- 釘の装填をするときは、必ずコンタクトアーム・ロック・レバーをロックの状態にしてください。
- 釘を装填するときや取り出すときは、必ず充電池を取りはずしてください。
- けがをするおそれがあるので、指はプッシャから離してください。

釘を装填する方法は2種類あります。



釘を装填してからプッシャを引く方法
(1) 本機から充電池を取り出し、コンタクトアーム・ロック・レバーをロックします。

(2) 釘をマガジンの後端に入れます。

(3) 釘が落ちるまでプッシャを引き戻します。

(4) プッシャを離します。

プッシャをロックして装填する方法
(1) コンタクトアーム・ロック・レバーをロックします。

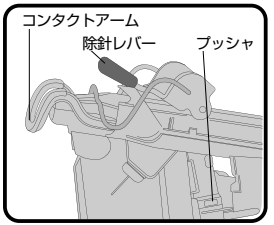
(2) プッシャをRELEASEまで、引き戻しロックさせます。

(3) 釘をマガジンの後端に入れます。

(4) プッシャを前に押して、RELEASEの位置から解除します。

◆釘の取り出し

⚠ 警告
- 本機に釘を装填するときは、安全な方向に向けてください。
- 釘の装填をするときは、必ずコンタクトアーム・ロック・レバーをロックの状態にしてください。
- 釘を装填するときや取り出すときは、必ず充電池を取りはずしてください。
- けがをするおそれがあるので、指はプッシャから離してください。



(1) 本機から充電池を取り出し、コンタクトアーム・ロック・レバーをロックします。

(2) プッシャをRELEASEまで、引き戻しロックさせます。

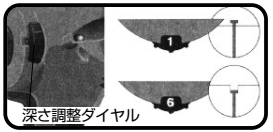
(3) 本機を傾けて、マガジンの後端から釘を滑り出させます。

(4) ノーズの除針レバーを開けて、釘が残っていないことを確認します。

◆深さ調整

⚠ 警告

・深さ調整をするときは、安全な方向に向けてください。
・釘の装填をするときは、必ずコンタクトアーム・ロックスイッチをロックの状態にしてください。
・釘を装填するときや取り出すときは、必ず充電池を取りはずしてください。
・けがをするおそれがあるので、指はプッシャから離してください。



(1) 釘を浅く打ち込むには、深さ調節ダイヤルを下に回します。6段階で深さを調節でき、1が最も浅く、6が最も深い打ち込みとなります。

(2) 釘を深く打ち込むには、深さ調節ダイヤルを上に回します。

◆作業灯

⚠

・作業灯は作業中の部材を照らすために設けられたもので、懐中電灯として使用するものではありません。
・ライトの光を直接のぞき込んだり、目に当てたりしないでください。

本機の両側には作業灯があります。
作業灯は充電池を入れたときやトリガーを作動したとき、またはコンタクトアームを押し付けた時に点灯します。
作業灯は、本機を使用し続けなければ10秒後に消えます。

◆低バッテリ・インジケータ

充電池の電圧が低いと、作業灯は4回連続して点滅した後消えます。

低バッテリ ・・・・・・ ■ ■ ■ ■

釘詰まりインジケータ：釘がコンタクトアーム内で詰まると、作業灯は連続して点滅します**（詰まった釘の解除の項を参照）。**

釘詰まり ・・・・・・・ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

◆詰まった釘を取り除く方法

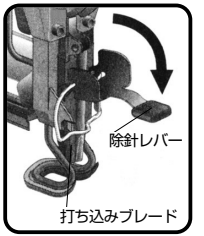
⚠ 警告

・詰まった釘を取り除くときは、安全な方向に向けてください。
・詰まった釘を取り除くときは、必ずコンタクトアーム・ロック・レバーをロックの状態にしてください。

⚠ 警告

・詰まった釘を取り除くときは、必ず充電池を取りはずしてください。
・けがをするおそれがあるので、指はプッシャから離してください。

ノーズ内で釘が詰まった場合は本機を人がいない方向に向けてから、以下の手順で解除してください。



(1) 本機から充電池を取りはずし、コンタクトアーム・ロック・レバーをロックします。

(2) プッシャを引き戻してロックさせてから、釘を取り出します。

(3) 除針レバーを上げ、曲がった釘を取り出します。必要ならペンチを使ってください。

(4) 打ち込みブレードが下がったままの場合、充電池をはずした状態でスクリュードライバや細い金具をノーズに入れて、打ち込みブレードを正しい位置に押し戻してください。

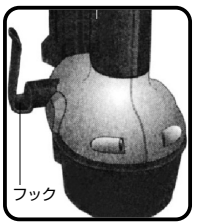
(5) 2本のアームにフォームをはめます。ラッチを押して元の位置に戻します。

(6) 充電池を入れます。

(7) 釘をマガジンに入れ直します（釘の装填方法を参照）。

(8) プッシャを解除します。

◆フックの取り付けと取りはずし方



本機にはフックが装備されています。
使い勝手に応じて、本体の右左どちらでもフックが取り付けることができます。（フックは、本機に取り付いた状態で出荷します。）

(1) 本機から充電池を取りはずし、コンタクトアーム・ロック・レバーをロックします。

(2) フックは、逆側から差し込まれているネジで取り付いています。
このネジを取りはずし、フックをとってください。

(3) フックを取り付け、逆側からネジを差込み締めます。

トラブル・シューティング

多くの問題は以下の表を参照して解決することができます。それでも解決できない問題や、さらに深刻な問題はサービスセンタにお問い合わせください。

⚠修理を行う前に充電池を本機から取りはずしてください。

症　状	原　因	対　策
本機に電源が入らない。 （作業灯が点灯しない）	①充電池の充電が不充分か、充電池が損傷しています。 ②端子が汚れているか、損傷しています。 ③コンタクトアーム・ロック・レバーがロックされています。 ④コンタクトアームが曲がっています。 ⑤内部の電気系統がリセットされていません。 ⑥内部の電気系統が破損しています。	①充電池を交換してください。 ②所定のサービスセンタに問い合わせてください。 ③コンタクトアームのロックを解除してください。 ④所定のサービスセンタに問い合わせてください。 ⑤充電池をはずし、3秒後に入れ直してください。 ⑥所定のサービスセンタに問い合わせてください。
本機が始動しない。 （作業灯は点灯するがモータが始動しない）	①モータが2秒後に停止しました。 ②コンタクトアームまたはトリガーが作動していません。 ③トリガーが損傷しています。 ④コンタクトアームが曲がっています。 ⑤コンタクトアームロックされています。 （シーケンシャル動作のみ） ⑥内部の電気系統の故障です。充電池の充電が不足しているか充電池が損傷しています。	①異常ではありません。トリガーまたはコンタクトアームを解除してから押し直してください。 ②マニュアルを見てください。 ③所定のサービスセンタに問い合わせてください。 ④所定のサービスセンタに問い合わせてください。 ⑤コンタクトアームのロックを解除してください。 ⑥認定されたサービスセンタに問い合わせてください。
本機が始動しない。 （作業灯が4回点滅した）	釘が詰まっています。	詰まっている釘を取り除いてください。
本機が始動しない。	内部電気系統の故障です。	①充電池をはずし、詰まった釘を取り出し手から（必要に応じて打ち込みブレードを手で押し戻してください）、充電池を入れ直してください。 ②所定のサービスセンタに問い合わせてください。 所定のサービスセンタに問い合わせてください。
本機が始動しない。 （作業灯は点灯し、モータも始動する） 本機が始動しない。 （作業灯は点灯、モータ始動、打ち込みブレードが下がっている）	①リターン・システムの故障です。 ②ノーズにゴミが詰まっています。 ③ドライバ／リターン・アッセンブリの故障です。	①リターン・システムを交換してください。 所定のサービスセンタに問い合わせてください。 ②ノーズを清掃してください。 ③ドライバ／リターン・アッセンブリを交換してください。 所定のサービスセンタに問い合わせてください。

次ページに続く

トラブル・シューティング

多くの問題は以下の表を参照して解決することができます。それでも解決できない問題や、さらに深刻な問題はサービスセンタにお問い合わせください。

⚠修理を行う前に充電池を本機から取りはずしてください。

症　状	原　因	対　策
本機は動作するが、 釘の打ち込みが不充分。	①充電池の充電が不足しているか充電池が損傷しています。 ②深さ調節が浅すぎます。 ③本機が部材にしっかりとあてられていません。 ④釘の種類・長さが合っていません。 ⑤コンタクトアーム先端が損傷、または磨耗しています。 ⑥ドライバ／リターン・アッセンブリが損傷、または破損しています。	①充電池を交換してください。 ②深さ調節ダイヤルをもっと深く設定してください。 ③取扱説明書を見てください。 ④推奨した釘をご使用ください。 ⑤ドライバ／リターン・アッセンブリを交換してください。所定のサービスセンタに問い合わせてください。 ⑥ドライバ／リターン・アッセンブリを交換してください。所定のサービスセンタに問い合わせてください。
本機は動作するが釘が出ない。	①マガジンに釘が入っていません。 ②釘のサイズまたは角度が間違っています。 ③コンタクトアーム内にゴミが詰まっています。 ④マガジンにゴミが入っています。 ⑤マガジンが磨耗しています。 ⑥コンタクトアームが損傷、または磨耗しています。 ⑦プッシャのスプリングが損傷しています。	①マガジンに釘を装填してください。 ②推奨した釘をご使用ください。 ③コンタクトアーム内を掃除してください。 ④マガジンを清掃してください。 ⑤マガジンを交換してください。所定のサービスセンタに問い合わせてください。 ⑥ドライバ／リターン・アッセンブリを交換してください。所定のサービスセンタに問い合わせてください。 ⑦スプリングを交換してください。所定のサービスセンタに問い合わせてください。
釘が詰まった。	①釘のサイズまたは角度が間違っています。 ②コンタクトアームが損傷しているか磨耗しています。 ③釘の種類・長さが合っていません。 ④充電池の充電不足か充電池が損傷しています。 ⑤コンタクトアーム内にゴミが詰まっています。 ⑥マガジンにゴミが入っています。 ⑦マガジンが磨耗しています。 ⑧プッシャのスプリングが磨耗しているか損傷しています。	①推奨した釘をご使用ください。 ②ドライバ／リターン・アッセンブリを交換してください。所定のサービスセンタに問い合わせてください。 ③推奨した釘をご使用ください。 ④充電池を充電するか交換してください。 ⑤コンタクトアーム内を掃除してください。 ⑥マガジンを清掃してください。 ⑦マガジンを交換してください。所定のサービスセンタに問い合わせてください。 ⑧スプリングを交換してください。所定のサービスセンタに問い合わせてください。

保守点検

⚠ 警告

・保守点検をするときは、必ずコンタクトアーム・ロック・レバーをロックの状態にしてください。
・保守点検をするときは、必ず充電池を取りはずしてください。
・本機の調節または保守を行うときは、マガジンから釘を抜き取ってください。さもないと重大な事故の原因となるおそれがあります。

毎日の点検項目

処　置	理　由	方　法
マガジン、コンタクトアーム機構を清掃する。	マガジンを円滑に動作させ、磨耗を減らし、詰まりを防止する。	圧縮空気を吹き付けて清掃する。
毎回使用前に、全てのネジ、ナット、留具がきつく締まっているか、または破損していないか確かめてください。	詰まりを予防し、部品が早く磨耗することを防ぎます。	ゆるくなったネジや留具は、正しいレンチやスクリュードライバで締め直してください。

メンテナンス

製品の掃除には、から拭き、水またはぬるま湯でうすめた中性洗剤を湿らせた布で表面を拭いてください。テレピン油、ペイント用シンナー等の薬品は使用しないでください。製品内部に液体が入らないように、また製品本体を液体に浸けないように十分注意してください。

アフターサービスについて

本機の修理、メンテナンス、調整は所定のサービスセンターにて行わなければなりません。かならずお買い上げの販売店または当社所定のサービスセンターまでご相談ください。修理の知識や技術のない方が修理を行ないますと、事故やケガの恐れがあります。

♻充電電池と環境

Ni-Cd
ニカド電池は
リサイクルへ

デウォルト社製コードレス電動工具に使用している充電池はリサイクル可能な貴重な資源です。充電池や製品の廃棄の際には、下記の手順に従いリサイクルにご協力ください。

(1) 充電池の寿命がなくなるまで使いきってから充電池を交換する（ニカド充電池には寿命があります）。

(2) お買い求めの販売店または所定のサービスセンターにお持ちください。

アクセサリー

本製品用の付属品は各販売店もしくは所定のサービスセンターにて販売しております。また付属品やアタッチメントについてのお問い合わせは、マックス(株)までご連絡ください。

⚠当社の認定しない付属品やアタッチメントのご使用は、事故やケガの原因になる恐れがあります。ご使用にならないでください。

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

総販売元：マックス株式会社

MAX®
マックス株式会社

本社・営業本部	〒103-8502 中央区日本橋箱崎町６－６	TEL(03)3669-8121(代)
札幌支店	〒060-0041 札幌市中央区大通東6－12－8	TEL(011)261-7141(代)
仙台支店	〒984-0002 仙台市若林区卸町東2－1－29	TEL(022)236-4121(代)
東京支店	〒103-8502 中央区日本橋箱崎町６－６	TEL(03)3669-8118(代)
名古屋支店	〒461-0025 名古屋市東区徳川1－11－23	TEL(052)935-8531(代)
大阪支店	〒553-0004 大阪市福島区玉川1－3－18	TEL(06)6444-2031(代)
広島支店	〒733-0035 広島市西区南観音7－11－24	TEL(082)291-6331(代)
福岡支店	〒812-0006 福岡市博多区上牟田1－5－1	TEL(092)411-5416(代)
盛岡営業所	〒020-0824 盛岡市東安庭２－10－3	TEL(019)621-3541(代)
宇都宮営業所	〒321-0933 宇都宮市簗瀬町2313	TEL(028)636-3012(代)
柏営業所	〒277-0871 柏市若柴297－12	TEL(04)7132-1500(代)
多摩営業所	〒190-0022 立川市錦町５－17－19	TEL(042)528-3051(代)
水戸営業所	〒310-0043 水戸市松ヶ丘２－３－27	TEL(029)255-3761(代)
浜松営業所	〒433-8117 浜松市高丘東２－22－15	TEL(053)439-3300(代)
神戸営業所	〒650-0017 神戸市中央区楠町６－２－４	TEL(078)367-1580(代)
南九州営業所	〒891-0115 鹿児島市東開町３－24	TEL(099)269-5347(代)
新潟マックス㈱	〒955-0081 三条市東裏館２－14－28	TEL(0256)34-2112(代)
群馬マックス㈱	〒371-0844 前橋市古市町233－５	TEL(027)210-7755(代)
埼玉マックス㈱	〒331-0823 さいたま市北区日進町3－421	TEL(048)651-5341(代)
千葉マックス㈱	〒284-0001 四街道市大日1870－１	TEL(043)422-7400(代)
横浜マックス㈱	〒241-0822 横浜市旭区さちが丘７－６	TEL(045)364-5661(代)
長野マックス㈱	〒399-0033 松本市笹賀８155	TEL(0263)26-4377(代)
長野営業所	〒381-2247 長野市青木島１－35－１	TEL(026)285-6740(代)
静岡マックス㈱	〒422-8036 静岡市駿河区敷地1－3－26	TEL(054)237-6116(代)
金沢マックス㈱	〒921-8061 金沢市森戸２－15	TEL(076)240-1871(代)
富山営業所	〒930-0827 富山市上飯野字樋向割10－8	TEL(076)452-0182(代)
福井営業所	〒918-8237 福井市和田東２－1711	TEL(0776)27-3378(代)
京滋マックス㈱	〒612-8414 京都市伏見区竹田段ノ川原町9	TEL(075)645-5061(代)
岡山マックス㈱	〒700-0971 岡山市野田３－23－28	TEL(086)246-9516(代)
四国マックス㈱	〒761-8056 高松市上天神町761－３	TEL(087)866-5599(代)
徳島営業所	〒770-0863 徳島市安宅２－４－46	TEL(088)623-0286(代)
松山営業所	〒790-0951 松山市天山２－１－35	TEL(089)913-0608(代)
マックスサービス㈱札幌	〒060-0041 札幌市中央区大通東6－12－8	TEL(011)231-6487(代)
マックスサービス㈱仙台	〒984-0002 仙台市若林区卸町東2－1－29	TEL(022)237-0778(代)
マックスサービス㈱高崎	〒370-0031 高崎市上大類町４12	TEL(027)350-7820(代)
マックスサービス㈱埼玉	〒331-0823 さいたま市北区日進町3－421	TEL(048)667-6448(代)
マックスサービス㈱名古屋	〒461-0025 名古屋市東区徳川1－11－23	TEL(052)935-8210(代)
マックスサービス㈱大阪	〒553-0004 大阪市福島区玉川1－3－18	TEL(06)6446-0815(代)
マックスサービス㈱広島	〒733-0035 広島市西区南観音7－11－24	TEL(082)291-5670(代)
マックスサービス㈱福岡	〒812-0006 福岡市博多区上牟田1－5－1	TEL(092)451-6430(代)

●マックスお客様ご相談ダイヤル（無料） 0120-228-358
月～金曜日 午前9時～午後6時

●住所、電話番号などは都合により変更になる場合があります。

060428-00/00